

# FRITZ LANG

この世のミステリーは、ジョーン・ベネットの微笑みから始まった。



フリッツ・ラングを愛さねばならない。  
彼の映画を拍手で迎え、映画館に駆けつけ、足繁く通い、  
そして新作を待ち焦がれなければならない。  
フランソワ・トリュフォー (カイエ・デュ・シネマ No.31, 1954)

幻のフィルム・ノワール

## 飾窓の女

The Woman in the Window

フリッツ・ラング監督作品

エドワード・G・ロビンソン/ジョーン・ベネット/ダン・デュリエ

製作・脚本◆ナナリー・ジョンソン 原作◆J・H・ウォーリス「Once Off Guard」

撮影◆ミルトン・クラスナー 音楽◆アーサー・ラング

1944年/アメリカ映画/モノクロ/99分/配給:シネカノン





トリュフォーが、ゴダールが、リヴェットが、  
敬愛してやまないシネアスト

# フリッツ・ラング

アメリカ時代の“幻のフィルム・ノワール”

41年の沈黙を破り、遂にスクリーンに登場!!



## 「飾窓の女」

悪夢を誘うジョン・ベネットの微笑み

「犯罪王リコ」(31)以来、「キー・ラーゴ」(48)など非情なギャングスターを演じて右に出るもの無しと言われていた名優エドワード・G・ロビンソンを、その微笑みで文字通り骨抜きにできるのは、ジョン・ベネットにおいて他にはいない。RKO版「若草物語」(33)の末娘役など純情可憐路線から、「貿易風」(38)で演じた謎の女を契機にイメージを一新。映画史において「ファム・ファタル(妖婦)」と呼ばれた女優は数知れないが、その白眉が「飾窓の女」のジョン・ベネットだと言っても過言ではない。その他も「マン・ハント」(41)「スカーレット・ストリート」(45)「扉の蔭の秘密」(48)と4本のラング作品に出演し、受難のヒロイン、シルヴィア・シドニー「暗黒街の弾痕」等と並んでラング作品になくはない女優となった。ロビンソンとベネットをじりじりと窮地に追い込むゆすり屋に「恐怖省」でもその陰湿な悪役ぶりが印象に残るダン・デュリエ。この3人の絶妙なキャスティングは、「飾窓の女」の姉妹編とも言える「スカーレット・ストリート」にもそのまま引き継がれている。その他、「愛欲の十字路」(51)のレイモンド・マッシー、「花婿物語」(44)のエドモンド・ブレオンとベテラン勢が脇を固め、サスペンスは破滅に向かって疾走する。

ふと覗き込んだ飾窓(ショーウインド)の中。一枚の絵と生きた女の顔がダブって見える。この魅惑的な飾窓の女との運命的な出会いによって、真面目な大学教授が見ず知らずの男を殺す羽目になり、破滅の道に追い込まれてゆくが……。

トリュフォー、ゴダール、リヴェットといった所謂「カイエ」派の批評家達が激賞したことから欧米で起こったアメリカ時代のフリッツ・ラング作品再評価の波は、日本になかなか伝わって来なかった。80年代後半になってようやく「暗黒街の弾痕」(37)「死刑執行人もまた死す」(43)「恐怖省」(44)「外套と短剣」(46)が公開され、その巧妙なプロットの積み重ね、卓越したストーリーテリングによりドイツ時代を凌ぐ完成された作品群は観る者を魅了した。そして「幻のフィルム・ノワールの傑作」として1953年の日本初公開以来ラング・ファンが待ち焦がれた「飾窓の女」が、41年間の永すぎた沈黙を破り遂に登場!

## 世界のシネアストが驚嘆し続けた フリッツ・ラング その多面的天才性

1880年、オーストリアのウィーン生まれ。フリッツ・ラングの名は、「ドクトル・マブゼ」(22)「ニーベルンゲン／二部作」(23～24)「メトロポリス」(26)「M」(31)などドイツ表現主義を代表する監督としてあまりにも有名。1933年にヒトラー政権が誕生するその前年に作られた「怪人マブゼ」(32)のラストに反ナチ精神を読み取った宣伝省のドン、ゲッベルスに出頭を命じられ、その日のうちに有り金を鞆に詰めバリへ向かったという逸話の残るラングは、みずからの描くサスペンス映画さながらのスリリングな母国脱出後、フランスを経由してハリウッドに渡った。その後、20年間で22本のアメリカ映画を残し、1958年再びドイツに戻り、「怪人マブゼ博士」(60)などを監督する。J=L・ゴダールのたつての依頼で「軽蔑」(63)に出演するなど、トリュフォー、リヴェットら多くのシネアストを魅了し続け、1976年に死去した。



## 5月19日木より緊急独占ロードショー!!

|                 |      |       |      |      |                               |                                     |
|-----------------|------|-------|------|------|-------------------------------|-------------------------------------|
| 5月19日(木)・20日(金) | 7:00 |       |      |      | ※但し、5月25日(水)、6月1日(水)、8日(水)は休館 |                                     |
| 5月21日(土)～       | 月～土  | 1:00  | 3:00 | 5:00 | 7:00                          | ■特別鑑賞券好評発売中!1,400円                  |
| 6月14日(火)        | 日    | 12:00 | 2:00 | 4:00 | 6:00                          | 当日料金:一般1,700円/学生・会員1,400円/シニア1,000円 |

### 「飾窓の女」公開記念イベント・スケジュール

5月19日(木) 12:30～外套と短剣(46) ● 2:30～暗黒街の弾痕(37) ● 4:30～M(31)★  
5月20日(金) 12:30～ムーンフリード(55) ● 2:30～ドクトル・マブゼ(22) ★※両日とも7:00より「飾窓の女」上映  
入場料金/●印の作品=当日券のみ1,200円均一 ★印の作品=当日券のみ500円均一 協力:東京ドイツ文化センター

SEIBU  
西武  
シヤ



シードホール

西武百貨店渋谷店=シード10階  
TEL03(3462)3795